



# 瀬谷小だより

No. 6

10月号

平成30年9月28日

横浜市立瀬谷小学校

## 将来に繋がる自己有用感

校長 倉岡 ナオミ

心配していた暑さもどうにかおさまったようで、秋らしい日が続いています。子供たちはセヤリンピックに向けて練習や準備を頑張っているところです。早いもので、もう10月、前期末を迎えます。これまで、大きな事故や事件もなく、無事に教育活動を進めてくることができましたのも、保護者、地域の方々のご支援、ご協力があればこそのことと、心より感謝申し上げます。

さて、この時期、ご存知のように瀬谷小学校では、セヤリンピックに向けてバディでのダンスの練習が始まっています。1年生と6年生、2年生と3年生、4年生と5年生がペアになって、一緒に演技（リズムダンス）を踊ります。上の学年が創って教えています。その様子を見ましたが、とても微笑ましい姿がたくさん見られ、こちらまで嬉しくなりました。今までの経験を生かして、一生懸命に下学年に教えている姿、あきらめずに何度も教えたり挑戦したりする姿、バディの相手ができたことを自分のことのように喜ぶ姿など、どれも普段の学習では得られない、学年を超えた素晴らしい学びでした。この学びを通して身に付いていくのが、自己有用感であると考えています。うまくいかないこともあるでしょうし、気持ちが落ち込むこともあるかも知れません。でも仲間とともに、励まし合い、アドバイスし合いながら自分の役割を成し遂げた時の達成感や充実感が、「自分ってなかなかいいんじゃない。やれるよね。すごいかも。」という気持ちを生み出していくと思うのです。そして、自分の力が誰かの役に立ち、喜ばれたときの嬉しさや自分が必要とされているという思いが、次の活動への意欲に繋がっていくのです。これも私の願っている心輝く姿です。

子供たちは、将来、何か仕事をする、家庭を守る、芸術を追究するなど、それぞれの得意な興味の持てるところで、自分の道を切り拓いていくことでしょう。様々な生き方があると思いますが、どんな道に進んでも、自分が幸せになるのはもちろん、周りの人をも幸せにできる人になってほしいと思います。そのためには、自分の力を誰かのために使ってそれを喜べること、相手の喜ぶ姿を見て、自分も嬉しいと感じる心を持っていることが必要です。将来に繋がる自己有用感、今、その基礎を子供たちは学んでいるところです。これからの成長もとても楽しみです。

前期の終わりにあたり、あゆみやいろいろな活動でこれまでの結果が表れることとなります。ご家庭においても、その結果だけを見るのではなく、そこに至るまでの努力やがんばり、気持ちをよく見ていただき、子供たちが後期に向けて「自分もまだまだやれる。頑張るぞ!」と思えるような声かけをお願いいたします。

子供たちの心身も充実し、成長が期待できる、実りの秋です。

